



# 美しい森林づくり



## 一貫作業システムで

## 美しい森林づくり

秋田森林管理署

湯沢支署

伐採から植栽までを一貫して行う一貫作業システムでの事業発注は全署単位で行われるようになりましたが、当支署ではその先駆けとなる実証試験を平成25年度より開始し、これまで3カ年約9haのフィールドで局・署及び関係機関による実証・検証が行われてきました。

実証・検証にあたっては、1年目（H25）は素材生産事業で使用する重機を活用した地拵とコンテナ苗の植付による検証、2年目（H26）は更に地拵の省略に向けた検証、3年目（H27）は下刈の省略に向けた検証と、年度毎に新たな試験目的を設定し、複合的に組み合わせることで更なる低コスト造林に資するよう取り組んできたところです。

また、検証結果等については、毎年現地検討会を開催し広く民有林へも波及するよう情報提供を行ってきました。

これら試験地の実行にあたっては通常の請負事業の一部として発注を行いました。3カ年とも地元の実業体が入札において落札、他の事業地を抱えながらも随時当方の都合に合わせて

業を行ってまいりました。

実際の作業ではこちらの指示に的確に添えつつ、1年目からコンテナ苗の植栽時に使う穴明け器具（湯沢式）を試行錯誤を繰り返しながら独自で開発するなど、少しでも効率の良い作業となるよう会社としても積極的に取り組んでいただけたところです。

また、一貫作業システムを2年、3年と繰り返す中で「この箇所は自分たちが植える場所」という意識が各作業者に浸透し、



コンテナ苗植栽の様子



穴明器具（湯沢式）

自ずと伐採、造材作業段階において枝条の整理や集積など、これまで以上の気配りが見られるなど、実証・検証結果もさることながら、技術者育成の観点からもこれからの森林づくりに欠かせない作業となったと感じています。



機械による枝条処理（地拵）の様子

昨年、事業終了後の初冬に森林づくりのため、林産企業等による分収造林の新規契約を地元の実業体に打診したところ、「山の日」記念ということもあり快く引き受けていただいたところですが、その際話に出たのが「せつ

かく自分たちで植えるのだから、これまで実施してきた一貫作業で行いたい」との強い要望でした。タイミング良く「立木販売契約相手方との分収造林契約の取扱い」が局から示され、全国初となる立木販売箇所による密着造林での分収造林契約を締結しました。



分収造林地カラマツ植栽状況

既にこの5月下旬にカラマツのコンテナ苗等を植栽し植付を完了しましたが、3カ年の作業を通じて効果を体験した企業が、自発的に本作業システムを選択し分収造林契約に至ったことは、民有林への普及に向け大いに期待を抱かせるものであり、今後これらのフィールドを活用し、この地域の美しい森林づくりが更に加速するよう引き続き取り組んでいきたいと考えています。